

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、管理者と職員が共有し、実践できるように努めている。	基本方針とケア方針の理念に基づいた運営理念を作っています。事業所内に掲示すると共に、月1回の会議で話し合い、管理者と職員が共有し実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会行事や地域活動に参加させていたき交流を深めている。又、見守り隊も継続して実施し、昨年施設で作成している新聞にも掲載し、地域の方より感謝しているとの声をいただいた。	利用者は敬老会、防災訓練、ゴミ拾い、下校時の見守り隊等の町会行事や地域活動に参加し、地域からも評価されています。これらの写真の掲示や施設の新聞記事から地域との交流に積極的に取り組んでいることが窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生が来園し施設の見学と仕事について学び、後日小学校での発表会に招かれている。又、地域にある高齢者の集いの場を訪問・見学し、そこで認知症についての話をさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他施設管理者とお互いの会議を行き来し、施設の質の向上に努めている。又、他施設の家族より自分達では言えないことを言ってくれてありがたいとの言葉を頂いている。	運営推進会議は町会長、民生委員、家族、他の施設管理者等が参加しています。地域の行事や当事業所の役割等の助言や他の施設管理者の意見をサービス向上に活かす努力をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員を受け入れ、意見交換をしている。又、松戸市グループホーム協議会においても市の職員が参加される時があり、そこで関わりを持つよう努めている。	当事業所は、認定更新の機会や松戸グループホーム協議会に市町村担当者と同席した時に、意見交換をしています。また月一度、介護相談員が来所し意見交換をしています。	運営推進会議や他の協議会の時に意見交換するに留まらず、事業所内の利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え、市町村との連携をなお一層深めることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地上出入り口の施錠は行っているが、職員が入居者の身体的・精神的な自由を守るよう心掛けている。	管理者や職員には身体拘束の研修を受ける機会を設け、身体拘束は行わないケアを実践しています。事業所の立地上から出入り口の施錠は行っていますが、入居者が出たい時には職員と一緒に出るようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い虐待防止の意識を高めている。又、日々の身体チェックや精神状態・行動観察に気を配り、僅かなシグナルも見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内に資料やパンフレット等を備えており、職員がいつでも目を通せるようになっている。又、管理者は権利擁護の研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	併設介護老人保健施設の支援相談員と協力し、入居者・家族共にすべての面において十分納得していただくような説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を傾聴し、家族にも面会時に意見・要望を聞き対応できるように努めている。	利用者の思いや意見をとりえ、家族には来訪時に意見や要望を聞いています。出された意見や要望は運営に反映しています。	利用者や家族からより多くの意見や要望を引き出せるように工夫をされることを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフミーティングを開催し、管理者及び職員で意見交換をしている。	スタッフミーティングに出席できない職員には事前に意見要望を聞いて運営に反映する仕組みができています。また新人には研修時に個人意見書を書かせ運営に関する意見や提案を吸い上げる仕組みができています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの業務状況・実績の把握、又は職員の意見を聞きやりがいを持って働くことができるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が各種研修会に参加できるよう体制を整えている。又、併設介護老人保健施設と合同で勉強会やセミナーを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学等を積極的に行っている。又、松戸市グループホーム協議会主催の交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の要望に耳を傾け、可能な限り入居者の希望に沿えるよう努めている。又、入居当初は本人の不安を和らげる為、家族の協力を得られるよう話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に家族との面談を十分に行い、家族の求めていることを理解するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者及び家族の意向を踏まえた対応ができるよう、併設介護老人保健施設の支援相談員と共に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって穏やかに過ごせる居心地の良い場所になるよう、共に過ごし信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者に関しての情報交換を行い、入居者の意見を家族に伝え、相談し、共に支える環境を作るよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所について本人や家族からヒアリングをし、可能な限り関係が続けられるよう支援している。	外出の時に利用者がこれまで大切にしてきた場所や家の近くまで行ったり、事業所の開催する餅つきやバーベキューの時に地域の人と交流したり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の為孤立することはないが、入居者同士が関わりあえるよう職員が間に入り関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談等がある場合には対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から本人の希望を読み取り検討・対応している。	利用者の思いや暮らし方の希望、意向は、日々の会話、行動、表情などから把握に努めています。家に帰りたいと思う利用者には家族と外泊について話し合い対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人又は家族に確認し、生活歴等を把握すると共に、本人の経歴を尊重し、日々のケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調や状態等を把握し、それに合わせた一日の生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人・家族・主治医等と話し合い、意見を反映させた介護計画を作成している。	利用者がより良く暮らすために、利用者や家族の要望を聞き、主治医、現場の職員等で話し合い、それを基に現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を日々記入し、職員全員が常に情報を共有・把握できるようにしている。又、事例検討等を行い、実践・参考とし職員側の考える力を養っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況や要望等を踏まえ、サービスが画一的なものにならないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや地域の公民館で行われている「ひまわりサロン」に参加。又、地域児童の「見守り隊」の活動に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師が月2回往診している。又、休診日も含め24時間対応できる体制をとっている。他病院を受診した際は連絡表を持参して頂き情報共有に努めている。	協力病院の医師の往診を月2回行っています。希望者にはかかりつけ医の受診を受けられるよう配慮しています。その場合は健康連絡帳を持参し、利用者の健康状態を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師や併設介護老人保健施設の看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。又、一昨年より訪問看護に入っていたきくようになり、より一層の相談や適切な対応ができる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員及び併設介護老人保健施設の支援相談員が協力して病院のソーシャルワーカー等との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年終末期を実施し、家族の意向の変化等にその都度相談を受け、主治医や訪問看護の意見を聞き、話し合いの場を作り、より良い対応に向け協議した。ご家族からも満足した最後が迎えられたと思うとの言葉を頂戴した。	入居時に、家族に見取りについての方針を説明し同意書を得ています。終末期に入った段階で家族の意向の変化に対応し、家族、主治医、訪問看護師、職員と話し合い、納得した上で再度同意書を得て、関係者で連携を図りながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応における施設内研修・マニュアル等により実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設介護老人保健施設と合同で避難訓練を行っている。又、町会の防災訓練に職員・入居者と参加している。	併設している介護老人保健施設とグループホームは防火扉で仕切り、お互いに類焼を防ぎ利用者の安全確保の仕組みが出来ています。年2回避難訓練(夜間想定含む)を同施設と合同で行い安全確保に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、思いやりを持った声掛けや対応を心掛けている。	日常の言葉かけや会話の中で、利用者一人ひとりの人格を尊重し、思いやりを持って対応する方針を職員間で確認し合い、誇りやプライバシーを損ねる事が見えたときはお互いに注意できる職場作りに努力しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人のレベルに合わせた対応をし、自己決定できるような声掛け・働きかけを行っている。又、訴えることのできない方へは、表情やしぐさから汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の希望を傾聴し、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみの支援や、外出時の化粧等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好と栄養バランスを考慮しつつ、入居者と共に献立を考え、準備し、食事を楽しんでいる。	朝、夕は併設の老人保健施設から管理栄養士が個人の栄養マネジメントした食事が提供されます。昼とおやつ、イベント食は、利用者の好みを聞きながら一緒に買い物に行き、食事の支度を行い食事の楽しみを共有しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量をチェックし、不足又は過剰の無いように調整している。又、不足に対しては個々に合わせた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。又、歯科医師から口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、入居者一人ひとりの排泄パターンを精神面を考慮しながら対応している。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、日中は、少しのしぐさや、表情を読み取りトイレ誘導を行い布パンツで過ごせるようにしています。夜間は安眠できるようにトイレ誘導を控え、リハビリパンツに代えて対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く含んだ食事を提供している。又、毎日体操や散歩等の適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設のデイケアと入浴室が共同である為、入浴時間帯は決められているが、可能な限り希望に沿って支援している。	入浴は午後に決めています。その時間内で希望に沿った時間を設定しています。浴室は大浴場でゆったりしています。利用者が「一人で入浴したい、仲の良い人と入浴したい」等希望する時は、希望に沿った支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の入眠パターンを把握し、夜間安眠できるように日中は活動するよう促している。又、就寝時間は決まっているが、入眠を強制せず本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体が使用している薬の目的・用法・用量を確認している。又、内服するまでに複数回チェックを入れ誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに合わせた役割(雑巾縫い・洗濯物たたみ・号令等)をその都度与え、生活意欲の向上に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日頃から散歩・買い物等を多く持つようになっている。又、季節に応じて外出の機会をつくっている。	利用者とスーパーに買い物に行くことが多いため、レジーの人と顔馴染みになり、買い物に行くのを楽しみにしています。普段行けない所にチューリップを見に行き、季節を感じてもらったり、屋上で野菜を育て、食材として楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では金銭は職員が管理しているが、希望により外出時は各個人に財布を持たせ、金銭の出納ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望があった場合は支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居心地の良い空間作りを心掛けており、室内装飾等で季節感を感じることができるよう工夫している。	共有部分には利用者が安全に移動できるように、また職員が利用者の行動を目視する妨げにならないように工夫をし、居間の一角にくつろげるように畳の部屋を設けたり、五月の節句や菜の花を飾って季節を演出し、居心地の良い空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居間以外にもソファ等を配置し、入居者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者及び家族と相談の上、過ごしやすい空間になるようにしている。又、使い慣れた物や好みのものを持ち込むよう勧めている。	事業所でタンス、ベット、カーテンは用意していますが、利用者には何を持ってきても良いことを伝えています。利用者は使い慣れたものや趣味で作った刺繍で部屋を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのADL・生活リズム・習慣等を把握し、それに合わせた環境作りを心掛けている。		